

～令和4年9月 データから見た業界の動き～

9月報告のポイント

原材料価格の値上げが収益を圧迫 下半期景況の見通しは「悪い」が7割 厳しい見方

■ 概 況

9月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で売上高+6ポイント（前年同月比+22）、収益状況ポイント▲20（前年同月比+2）、景況感▲6ポイント（前年同月比+4）となった。

業種別で製造業は売上高▲10（前年同月比+15）、収益状況▲35（前年同月比▲5）、景況感▲15（前年同月比±0）となった。

売上は昨年度に比べ、コロナ禍前までとはいかないが増加している。しかし、燃料費、電気料金及び原材料の価格高騰から収益は低下しており、景況感の見通しも良くない状況が伺える。

食品製造業（製麺）▶4月に販売価格の値上げをしたが、原材料価格の上昇が続き、価格転嫁しきれていない。

木材・木製品製造業▶燃料や資材などが高騰し、仕入れが難しくなっている。特に電気料金の大幅値上げが痛手、収益を圧迫している。

紙製造業▶原材料となる化成品や価格繊維が複数回値上げされており、価格転嫁が進まず収益は悪化している。

山砕石▶原材料等の高騰分のすべてを販売価格へ転嫁できていない。生産しても収益につながるか不安を感じている。

非製造業では、売上高+17（前年同月比+27）、収益状況▲10（前年同月比+7）、景況感±0（前年同月比+7）となった。

非製造業でも原材料価格、仕入価格の値上げはあるが、製造業に比べると販売価格への転嫁が進んでいることも報告から伺える。しかし消費者の買い控えも今後懸念され、売上の悪化も予想される。

ジュエリー（卸売）▶大型のイベントが開催されるようになり、売上も収益も増加したが、円安の影響を受け原材料価格が大幅に上昇したため販売価格も20%UP、消費離れを懸念している。

小売（食肉・水産物）▶仕入価格・販売価格の上昇が続いており、消費者の買い控えが発生している。

小売（電気製品）▶半導体の不足、中国のロックダウンによる品不足に加え、メーカー各社の価格改定から需要の減少が懸念される。

型枠大工工事業▶原材料高騰分を販売価格に転嫁できず廃業を決めた事業者がいる。

今回、今後の景況感について追加で調査を実施、有効回答45社のうち、2022年下半期の景況感「悪い」と予測する事業者は7割弱に上り、昨年11月の同様の調査を行った際の「悪い」と回答した事業者が2割強から大幅に増加した。「物価の上昇による個人消費の落ち込みから売上げが減少し、コロナ支援策の「ゼロゼロ融資」の返済が始まる中、廃業を余儀なくされる事業者も出てくる」（トラック）、「最低賃金は上昇するが企業の収益状況が改善されなければ人件費全体のバランスを取らざるを得なくなり、結果的に手取り給与は微増にとどまり消費は増えにくい」（事務機小売業）など将来的な企業活動への不安を口にする事業者のコメントが増えてきている。値上げラッシュが事業活動のみならず家計に大きく影響を及ぼし、消費者は財布の紐を固くしつつあることから、今後売上げが減少すると予測が多い。旅行や外食など一部では消費者行動喚起策があるが、賃金の増加は見込めず、節約ムードが高まっており事業者の収益状況が改善される見込みは立てにくい状況が伺えた。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

<p>食料品 (水産物加工業)</p>	<p>経済活動が活発化してきており、ギフト関連商品や業務用商品ともに好調。おせちの前倒し受注もあり、売上げは前年同月と比べ55%増加した。</p>
<p>食料品 (洋菓子製造業)</p>	<p>新規出店効果から前年同月と比べ売上げは11%増加するなど、堅調に推移している。</p>
<p>食料品 (麺類製造)</p>	<p>今年4月に販売価格を5～7%程値上げしたが、5月以降も原材料等の値上がりが続いているため、値上がり分のすべてを販売価格に転嫁できていない。先行きに不安を抱えている。</p>
<p>食料品 (酒類製造業)</p>	<p>ワインの仕込み時期である9月は台風被害もほぼなく、原料のブドウの出来も良好であるため、高品質なワインの仕上がりが期待できる。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>裏地部門は順調に受注があるが、来月は今月程の受注量はない。ネクタイ部門は、9月になっても暑い日が続いていたため売上げが伸びなかった。また、生糸の価格が高騰しているが、価格への転嫁が難しい。傘地部門では、ブランドの製品を製造する「OEM」の生産が順調である。インテリア部門は全体の受注量は少ないが、ここに来て新柄の受注が決まりつつある。</p>
<p>木材・木製品製造</p>	<p>前年同月と比べ、売上げは▲34%となった。燃料や金物部材、ビニール系の部材など、あらゆるモノの価格が高騰し仕入れが難しくなっている。中でも電力価格が大幅に上昇し、収益を圧迫している。これから繁忙期に入るのので、売上げが低迷していた分を取り戻したい。</p>
<p>紙製造業</p>	<p>原材料となる化成品や化学繊維が、今年に入ってから2～3回の値上げがあった。値上がり分が販売価格に転嫁できず、収益状況は悪化している。</p>
<p>窯業・土石 (山砕石)</p>	<p>前年同月と比べ売上げ、収益ともに▲12%となった。原材料や燃料価格の高騰が続いている中、未だその全てを販売価格へ転嫁できない状況であるため、生産しても収益に繋がるか不安を感じている。今後は、公共事業の発注が増え、少しでも景気回復に向かうことを願う。</p>

<p>鉄鋼・金属 (金属製品製造業)</p>	<p>原材料の流通量の減少と素材の価格が上がり、アルミやステンレスのなどの鋼材価格の高騰により、昨年よりコストが増加し、収益を圧迫している。</p>
<p>一般機器 (業務用機械器具製造業)</p>	<p>前年同月と比べ売上げは5%増加しているものの、組合員は物価高騰の影響を大きく受けている。価格が数ヶ月間変動しなかった材料もこのところ毎月価格が上昇していることから、取引先との交渉により原材料の高騰分を販売価格へ転嫁する努力を行っているが、非常に難しい。</p>
<p>一般機器 (生産用機械器具製造業)</p>	<p>前年同月の売上高が低かったため売上げは30%の増加となった。受注量は8月に比べると若干落ちているが確保はできている。価格上昇に併せて材料を多めに発注・仕入れを行ったためキャッシュアウトが増加、資金繰りは厳しい。今後は在庫を見ながら材料発注を控えていく予定である。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>納期遅延していた部材が入荷され、在庫となっていた半完成品が完成品となり出荷できるようになった。しかし、現在受注している分の部材入荷は約6ヶ月～1年待ちである。また、さらに遅延することも予想されるなど、今後も同様な半完成品が生じる恐れがあり、先行きへの不安が大きい。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>9月から車部品や光学系部品などの受注の減少が顕著になっている。特に半導体関連部品の動きが悪く、販売しきれず在庫が増えることから、今後生産調整が数ヶ月は続くことが予測される。それに伴い発生する受注競争による販売価格の低下が懸念される。</p>

● 非製造業

<p>卸売 (自動車中古部品)</p>	<p>中古車部品の販売価格はピークを過ぎたものの、未だに高い水準を保っている。しかし、新車の納期遅れなどの影響により廃車の発生台数はこれまでにないほど少なく、前年同月と比べ売上げ、収益ともに▲40%となった。</p>
<p>卸売 (ジュエリー)</p>	<p>大型イベントが開催されるようになり、前年同月に比べ売上げ、収益ともに15%の増加となった。しかし、円安の影響により材料の高騰が止まらず、販売価格も20%増加している。販売価格の上昇が消費離れにつながることを懸念している。物価の高騰により国内需要はあまり期待できないため、円安である今こそ渡航人数の上限規制がさらに緩和され、海外での展示会や国内展示会、都市圏の百貨店やファッションビルなどでの売上増加を期待する。</p>
<p>小売 (青果)</p>	<p>シルバーウィークは天候不順により客足は少なかったが、その中でもシャインマスカットの売れ行きは順調であった。</p>

<p>小 売 (食 肉)</p>	<p>新規感染者数の減少傾向が続いているが、会社関係の会食などは未だ少なく、飲食店の売上げは伸び悩んでいる。10月には国が実施する観光需要喚起策「全国旅行支援」が始まることから、観光客やホテル・旅館の宿泊者数が増加し、肉の販売数量が増加することを期待している。一方、円安やウクライナ情勢の影響により原材料価格の高騰が続いているため、今後も輸入肉、国産肉ともに価格が上昇すると考えている。</p>
<p>小 売 (水産物)</p>	<p>多くの商品が値上げされ、消費者の買い控えが発生している。仕入単価が上昇しているため、販売価格は値上がり傾向にある。</p>
<p>小 売 (電気機械器具小売業)</p>	<p>前年同月に比べると売上げは約20%増加、収益は約10%増加している。単月で見ると前年を上回っているが、年初の半導体不足や中国のロックダウン等の影響による品薄状況が続いていたことから、通期では前年を下回っている。円安などで原材料高騰が続く中、メーカー各社が商品価格を改定しているため、今後需要が落ち込むことを懸念している。</p>
<p>小 売 (事務機小売業)</p>	<p>素材の値上がりや円安の影響により商品価格が上昇し、売上が減少している。また、電気料金などの経費が増加する中、10月以降は最低賃金が改定されるため、収益の確保が難しい。</p>
<p>小 売 (ガソリン)</p>	<p>原油価格が下げ基調で推移しているが、為替は円安が進行しているため、小売市場の値下げ幅は小さい。9月末で政府の激変緩和事業が終了となる予定だったが、12月末まで延長されることとなり安心している。</p>
<p>商 店 街</p>	<p>食料品や日用品の値上がりにより一般消費者の家計が圧迫され、購買意欲が減少、更なる売上げの減少が予想される。また、組合が管理する駐車場の売上げは前年同月に比べ増加したが、コロナ前の水準と比較すると7割にも満たない。大月市PayPayセールが8/1～9/30まで開催されていたため、各店の売上げは増加しているが、商店街で利用可能なポイントカードの発行利用は大幅に減少している。PayPayセール後の動向を注視する。</p>
<p>宿 泊 業</p>	<p>8月に続きビジネス客、観光客ともに多く来県している。組合内では連日満室の施設もあるなど稼働率が高いまま推移している。10/11からは国が実施する観光需要喚起策「全国旅行支援」が始まるため、さらなる宿泊客数増加を期待している。</p>
<p>美 容 業</p>	<p>組合員の多くが個人事業主であり顧客は固定客が多いため、原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁することが難しく、売上げ・収益が上がらないのが現状である。</p>

<p>一般廃棄物処理</p>	<p>働き方改革と賃金上昇の両立は事業者にとって容易ではなく、中小企業者は事業の継続がますます難しくなると考えている。また、事業承継問題は今後さらに拡大していくと考える。</p>
<p>警備業</p>	<p>前年同月に比べ売上げは10%・収益は5%増加した。例年になく公共工事が増加している中、昨年まで中止・縮小となっていた土曜・日曜のイベントが開催されるようになり、警備依頼が増加している。しかし、警備員の高齢化による退職が増え、雇用人員は徐々に減少している。週末には複数のイベントが重なるが、人員不足のため需要に対して供給が追いついていない状況である。人員不足を解消しようと採用活動を行っているが応募は極めて少ない。また、ガソリン価格の上昇による警備員の交通費や社有車の燃料費の増加から、経費上昇分を販売価格に上乗せを取引先をお願いしているが、中小企業は価格転嫁について取引先からの理解を得ることが難しいのが現状である。</p>
<p>建設業 (総合)</p>	<p>公共工事では前年同月に比べ、件数で▲9%となり、請負金額では横ばいとなった。9月末累計では、件数で▲5%、請負金額で▲4%となった。</p>
<p>建設業 (型枠)</p>	<p>型枠工事の主要材料であるコンクリートパネルをはじめ、木材・金物ともに、この1年間で50%~200%上昇している。職人の高齢化により人件費も上昇しているが、取引先からの請負金額は上がりず経営が厳しい組合員が多い。原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁できないことから廃業を決めた同業者もいる。</p>
<p>建設業 (鉄構)</p>	<p>鉄スクラップの価格が9月上旬に一時に比べ値下がりしたが、今後は、中国のゼロコロナ政策における工場停止により発生する鋼材の供給不安、韓国の大手鉄鋼メーカーの台風被害やロシアと西側諸国との対立などによる鋼材の流通量の減少が考えられ、価格の高騰や在庫不足は厳しくなると予測している。また、売上金は建方が完成してから入金されるため、工期が延びるとその間に上昇した鋼材価格を販売価格に反映できない場合がある。コロナ禍からの回復機運により、組合員により手持ち量や稼働率の二極化がみられ、収益を確保できている一部の組合員は、材料価格の上昇を仕事量で補っている。一部では雇用人員の不足を感じている組合員がいる。</p>
<p>設備工事 (電気工事)</p>	<p>原材料価格の高騰は引き続き厳しい状況にあるが、電気工事の受注に関しては下半期も安定的に進捗するものと予想している。また、リモートワークの普及で持ち家の快適性を重視する人が増えたことなどを理由として、住宅着工は好調である。</p>
<p>設備工事 (管設備)</p>	<p>前年同月と比べ売上げは11%、収益は16.9%増加しているが、原材料の高騰や輸送コストの上昇により、メーカーからの価格改定の案内が増えている。仕入コストの上昇分を受注金額へ反映させることが難しいため、今後は収益の悪化が予想される。</p>

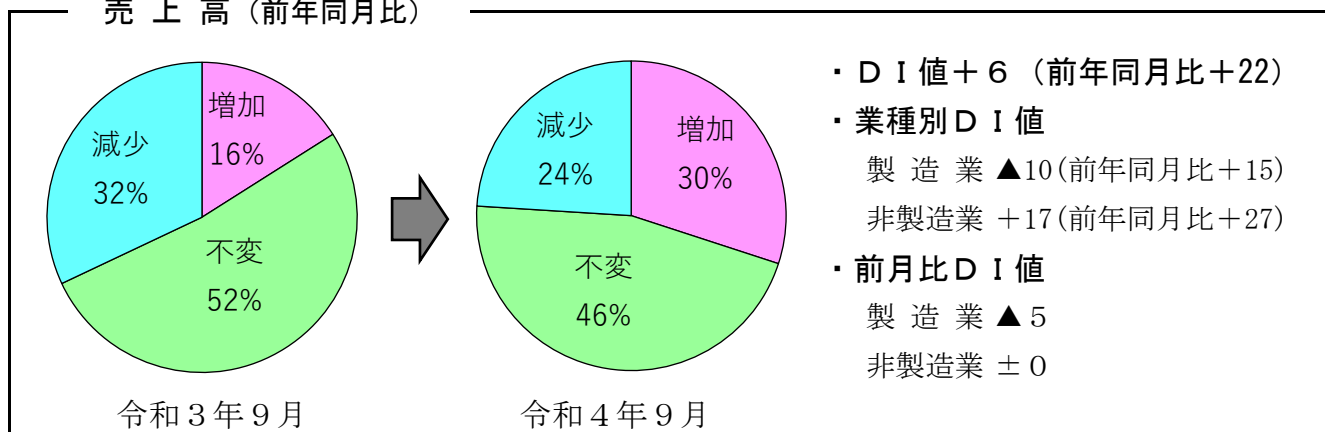
<p>運 輸 (タクシー)</p>	<p>前年同月に比べ売上げは30%増加した。日中のタクシー利用は増加しているが、夜間の利用は相変わらず少ない。感染症の影響や燃料高騰による経費の増加がしばらく続くと考えており、先行きに不安を感じている。</p>
<p>運 輸 (バ ス)</p>	<p>秋の旅行シーズンに向けて予約が増えてきている。しかし、運賃の値上げが難しい中での燃料費の高騰により、厳しい経営状況が続いている。</p>
<p>運 輸 (トラック)</p>	<p>燃料価格高騰の影響を受け、収益状況は改善されていない。10月には様々な商品の値上げラッシュが予定されていたため、駆け込み需要を期待していたが、思ったほど荷動きは少なく、厳しい経営環境は変わらない。</p>
<p>その他 (介護)</p>	<p>物価の高騰や円安の影響は少ないが、人手不足が深刻である。仕事の依頼が入っても断らざるを得ない状況のため、売上げが減少している。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

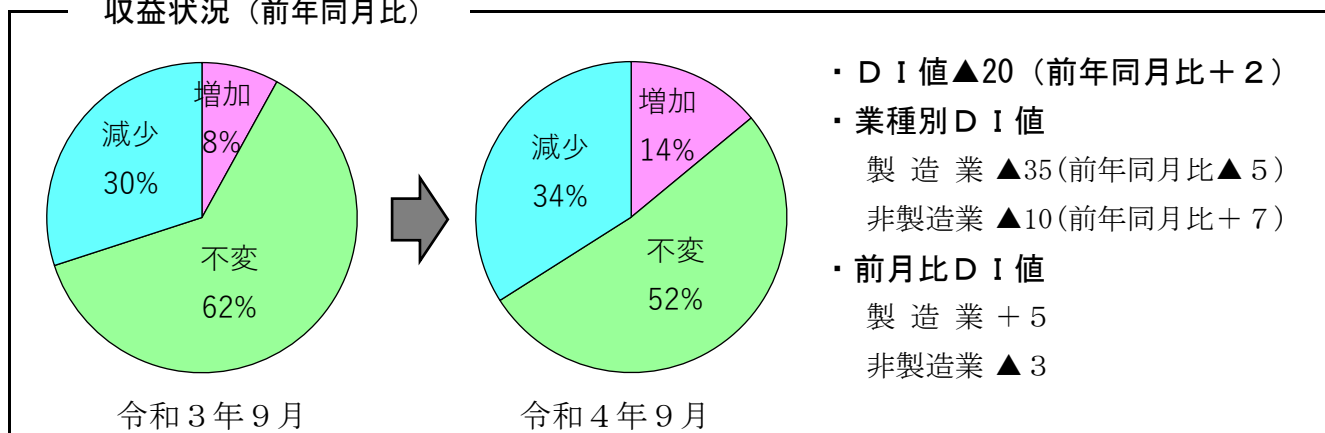
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2021/9	2022/8	2022/9	2021/9	2022/8	2022/9	2021/9	2022/8	2022/9
売 上 高	-25	-5	-10	-10	17	17	-16	8	6
収 益 状 況	-30	-40	-35	-17	-7	-10	-22	-20	-20
景 況 感	-15	-15	-15	-7	0	0	-10	-6	-6

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D. I 値

売 上 高 (前年同月比)



収 益 状 況 (前年同月比)



景 況 感 (前年同月比)

